

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	32人	算数	32人	理科	32人
第5学年	国語	32人	算数	32人	理科	32人

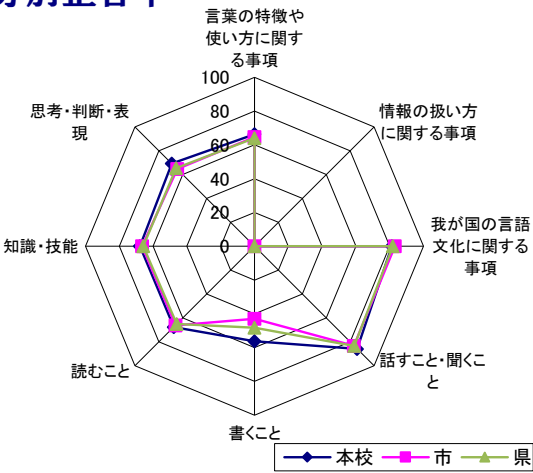
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.3	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.9	83.3	83.4
	書くこと	56.3	42.8	48.2
	読むこと	67.6	66.1	65.1
観点	知識・技能	67.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	69.3	64.6	65.5



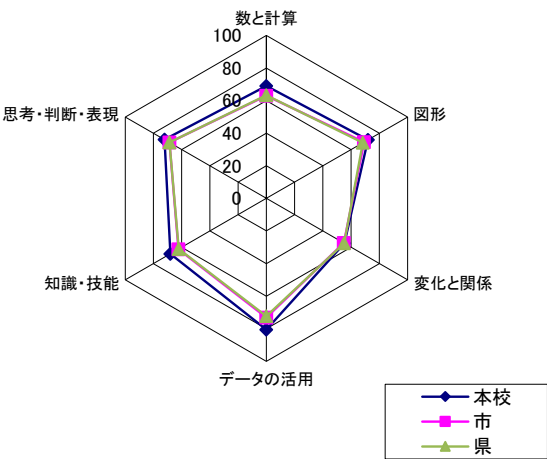
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より1.6ポイント高い。 ○読むことについては市の平均より高い、書くことについては、市の平均よりも低いものもある。 ○「自信」「反省」を読んだり、「季節」「倉庫」と書いたりする問題では、市の平均を大きく上回っており、漢字の定着が図られてきていることが分かる。 ●修飾と被修飾の関係を捉える問題の正答率は3.1%であり、市の平均を9.3ポイント下回り、大きな課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き漢字ドリルやAIドリルを活用し、該当学年の漢字学習に加え、既習の漢字学習に平行して取り組み、定着を図っていく。 ・定期的に漢字10問テストなどの小テストを実施し、根気強く指導していく。 ・文を文節に区切って、修飾語に近い文節から順に意味の結びつきを調べていくように指導するなどし、理解ができるように指導をしていく。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より1.8ポイント低い。 ●ことわざの意味を理解し、正しく使えるかについての問題の正答率は81.3%で、市の平均よりも1.8ポイント低くなっている。	・ことわざの意味の理解や正しい使い方の習得を図るため、似たような意味をもつことわざについて調べたり、まとめたり、問題を作成したりすることを通して、理解が深められるような活動を仕組んでいく。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均より2.6ポイント高い。 ○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめる問題の正答率は96.9%で、市の平均よりも11.1ポイント高い。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめる問題の正答率は75.0%で、市の平均を2.1ポイント下回っている。	・話し合いをする際には、常にその目的に立ち返りながら話し合えるように指導していく。 ・話題や意見の共通点、相違点に着目して話をしたり聞いたりできるように、メモをとりながら参加する姿勢を定着させていく。 ・少人数やグループでの話し合いや学級活動での話し合い活動を多く取り入れ、分かりやすく話しながら、相手の伝えたいことが何かに注目しながら聞くことの両側面を意識させ、話す・聞く力の向上を図っていく。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均より13.5ポイント高い。 ○「指定された長さで文章を書く」「2段落構成で文章を書く」「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く」「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く」すべての項目において市の平均を上回っている。	・日頃から段落構成を意識しながら作文を書いてきた成果が表れている。 ・調べて得られた情報としての事実と、そこから感じられる、考えられる自分の意見とを段落を分けて書くことを徹底し、混在することのないように指導してきた。引き続き、書くことを楽しみながら、自分の伝えたいことを豊かに文章表現できるような学習活動を仕組んでいく。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均より1.5ポイント高い。 ○登場人物の気持ちを具体的に想像し、空欄に適するものを選ぶ問題の正答率は40.6%で、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ●場面の様子をつえ、発言者を捉えて選ぶ問題の正答率は56.3%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。	・場面の様子をつえの際に、本文の叙述を基にしながら、登場人物の心情の変化や情景について、児童から様々な意見が出るよう授業を展開することで、場面同士のつながりや心情の変化が捉えられように指導する。 ・段落の中心となる語句や文を意識して読む力や、段落同士の関係を考えながら読む力の向上が図れるように、図式化して板書をしたり、デジタル教科書上で色分けをしたりなどすることで、視覚的に理解を促すことができるように努めていく。

宇都宮市立西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.0	63.0	63.3
	図形	71.9	69.2	68.3
	変化と関係	55.2	54.8	55.0
	データの活用	80.5	73.1	72.3
観点	知識・技能	68.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	72.2	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

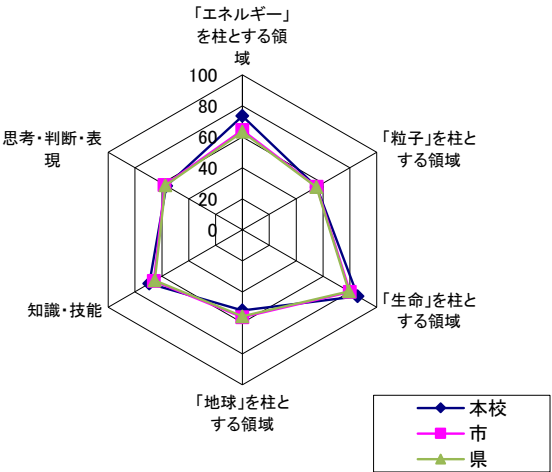
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均より6.0ポイント高い。 ○数の仕組みや基本的な計算の問題は全て市の平均を上回っている。 ○大問4の計算問題では、市の平均を8ポイント程度上回り、基本的な計算の技能が定着していることが伺える。 ●式の意味をあらわしたものを選ぶ問題の正答率が市の平均より12.2ポイント低い。式の意味の理解が浅いことと、文章の長い問題の読み取りの力が低いことが考えられる。	・今後も計算ドリルやAIドリルを有効に活用し、基本的な計算問題に繰り返し取り組ませることで、定着を図っていく。 ・立式をした時にその式が表す意味や単位を考えさせることで、何故そのような式になるのか理解を深めるようにしていく。式が現実の状況と繋がるように指導をしていく。 ・長文の問題にじっくりと取り組む時間を確保していく必要もあると考える。パワーアップタイムなどの活用が考えられる。
図形	本校の平均正答率は、市の平均より2.7ポイント高い。 ○直方体と立方体の頂点、辺、面の数などの性質から考える問題の正答率が市の平均より10.8ポイント高く、基礎的な図形の性質が定着している。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題の正答率が市の平均よりも13.1ポイント高い。 ●三角定規の角度の知識を使って足し算する問題の正答率は7%低く、三角定規の内角の大きさが定着していない可能性がある。	・引き続き、三角定規の角度や分度器の使い方等、基本的な事項について、確認し復習をしたり、問題に繰り返し取り組んだりすることで定着を図るようにする。 ・図形は定理が多いため各学年で図形単元をする際、前年度までに学習した定理を思い出す機会を確保する。また、定義と定理の違いを念頭に指導することも必要である。
変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均より0.4ポイント高い。 ○割合を使った長さの求め方を説明する穴埋め問題の正答率が市の平均より8.2ポイント高く、整数倍の理解度が高い。 ●1次関数の表から関係を捉えて答える問題や、関係を式にする問題の正答率が市の平均を少し下回った。	・関数の表の見方を継続的に指導することが必要である。「一方の数が1増えると、もう一方の数がa増える」という表の横の関係に着目させたり、 $y=ax+b$ のように「一方の数にどう演算をすればもう一方の数になる」という表の縦の関係に着目させたり、様々な見方を定着させる。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均より7.4ポイント高い。 ○二次元表の空欄補充や読み取りの問題が市の平均より10ポイント以上高く、よく定着している。 ○グラフから読み取れることを答える問題の正答率が市の平均より3.2ポイント高い。 ●折れ線グラフの傾きの意味を答える問題の正答率が市の平均より3ポイント低い。	・資料の読み取り方の基礎基本は定着している。今後も、2つのグラフや数値の変化に着目させ、比較した上で必要な条件を活用して考えることができるように指導していく。 ・授業において、択一式の問題だけではなく、記述式問題にも触れ、家庭学習やパワーアップタイムなどで習熟を図りながら、思考力、表現力を育成していく。

宇都宮市立西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.4	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	55.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	85.9	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	52.0	56.4	55.8
観点	知識・技能	69.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	56.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より9.1ポイント高い。どの問いの正答率も市の平均よりも高かった。 ○図で示された回路から電流が流れない原因の箇所を選ぶ問いでは、市の平均より13.9ポイント高かった。 ○回路の電池の向きを入れ替えた際の検流計の針の振れ方を表した図を選ぶ問いでは、市の平均よりも、9.5ポイント高かった。	・電気の働きの学習では、実験の意図や条件設定をしっかりと把握した上で、予想を立て、実験をし、考察をするようにした。さらに既習事項をしっかりと押さえた上で現象と結び付けて考えたり、現象を様々な条件と関連付けて調べたりし、根拠を明確にして考察するようにする。 ・学習内容に関連する活動を取り入れたり物づくりをしたりすることで学習したことをさらに広げることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より0.1ポイント低い。 ○実験結果の理由を、温度による空気の体積の変化に着目して答える問いでは、市の平均よりも12.0ポイント高い。 ○温められた空気の動きを答える問いでは、市の平均より17.7ポイント高い。 ●空気でつぼむ玉がよくとぶ仕組みを適切に説明している図を選ぶ問いでは、市の平均よりも15.7ポイント低い。 ●実験結果から空気の動きを適切に説明した文章を選ぶ問いでは、市の平均よりも18.0ポイント高い。	・空気や水の変化は、現象として捉えにくい内容なので、量や見た目の変化が分かりやすく、現象を捉えやすい具体的方法を示し、質的、実体的見方を働かせることができるよう支援する。 ・実験結果の考察の際には、予想や仮説と結果を結び付けて考え、科学的な言葉を用いながら図や文で表すことができるように支援し、それぞれが導き出した考察について話し合わせ、科学的な考えが深まるようにする。
「生命」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より5.8ポイント高い。どの問いの正答率も市の平均よりも高かった。 ○骨の働きを説明した文章をすべて選ぶ問いでは、18.0ポイント高い。 ○オオカマキリとトノサマガエル越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ問いでは、市の平均より5.0ポイント高かった。	・引き続き、人や動物の運動器官に着目し、骨の位置や筋肉の存在を調べたり、自分の体を動かしたり他の動物が運動しているところを観察させたりして、体の動きと骨や筋肉との関係を調べることで理解を深めさせていく。 ・様々な学習活動で、実物や模型、映像資料、図鑑等の様々な資料を活用することで実感が伴う理解をさせると共に、いろいろな事象に当てはめて考えることができるようにする。
「地球」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より4.4ポイント低い。 ○一日の気温の変わり方を示したグラフを適切に読み取った内容を選ぶ問いでは市の平均より8.5ポイント高い。 ○水が水蒸気になって空気から出ていく名称を答える問いでは、市の平均より8.8ポイント高かった。 ●2時間後に月が見える位置を示した図として適切な物を選ぶ問いでは、市の平均より14.2ポイント低い。 ●2時間後に見えたカシオペア座の移動と星の並び方を適切に述べた文章を選ぶ問いは、市の平均より10.8ポイント低い。	・天体に関する内容は、現象として捉えにくいので、実際の観測から得た結果をカードに記録して話し合わせたり、教科書の図などをもとに、星の位置が変化していることに気付かせたり、さらに、映像教材やシミュレーションソフトなどを使って、星や星座の動きを確認する等、様々なアプローチをすることで、一つ一つの現象をしっかりと検証させていくようにする。

宇都宮市立西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は87.6%で、市の平均より12.6ポイント上回っている。昨年度より、家庭学習で取り組む内容を児童が自ら選択し、自ら必要である学習に取り組むことができるように指導を重ねており、本年度も引き続き指導を継続してきた成果であると考えられる。計算ドリルや漢字練習のみならず、ウェブアプリケーション上でレポートを作成したり、問題を作成したりするなど、様々な種類から取捨選択できる環境が児童の意欲を向上させているとも考えられる。今後も継続していきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の割合は90.6%で、市の平均を9.0ポイント上回っている。学習に対して前向きで、日頃からめあてをもって学習に取り組んでいる現状から、学級全体で楽しみながら学習に取り組むことができることが伺える。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は100%であり、現在取り組んでいる学習が自分の人生において必要であるという意識も高く、授業態度のよさに影響していると考えられる。

○「グループの話し合い活動に自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は84.4%で、市の平均を6.4ポイント上回っている。各教科の授業において話し合い活動の場が確実に設定され、児童が意図や目的をよく理解し、主体的に話し合い活動に参加していることが分かる。本校の学校課題において、表現力の育成のため、児童同士の考えを深めたり調整したりする場の設定に取り組んできた成果であると考えられる。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「先生は学習のことについてほめてくれる」「学級活動の時間に、友達と話し合ってクラスのことを決めていくと思う」と回答した児童の割合はそれぞれ96.9%で、市の平均を大きく上回っている。学級内における教師や級友との関わりが良好で、安心した居甲斐のある学級で落ち着いた学習ができていくことにつながっていると考えられる。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した児童の割合は56.3%で、市の平均を8.2ポイント下回っている。テストの直しは基本的に学校で行っているためであると考えられるが、補充プリント等を宿題にするなど、家庭学習との連携も視野に入れて指導を継続していく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の割合は43.8%で、市の平均を3.9ポイント下回っている。各教科の学習において、自分の考えを形成する時間を十分に設けてから話し合わせるなど、児童が自信を持って発表に臨むことができるように指導をしていく。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使っている」と回答した児童の割合は53.2%で、市の平均を18.8ポイント下回っている。地図記号を覚えるだけではなく、地図帳やGoogleEarth等のマップアプリケーションを効果的に活用し、土地の様子や交通網を比較したり、そこから分かることをまとめたりする学習を展開するとともに、地図から得られる情報のよさについても適宜指導をしていく。

宇都宮市立西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現のための思考力と表現力の育成	各教科における「書く活動」の充実を図る。思考したことを文や文章、音声言語でいかに表現するか、その引き出しを増やすために、伝え合いや話し合い活動を充実させる。また、1人1台端末やICT機器を活用した共有・交流の方法の検討及び実践を行っている。言語活動が充実するために必要な働きかけは何か、そのファシリテート力の向上に努めている。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」と回答した5年児童の割合は100%、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した5年児童の割合は84.4%、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した5年児童の割合は62.5%である。この結果から、ある程度自分の考えを形成することはできるが、文章にまとめるとなると抵抗感を示す児童が多いことが分かる。そこで、「書くことができる」という体験を児童に存分に味わわせる必要があると同時に、その内容についても、児童同士の関わりの中で高めたり、精選できたりするように指導していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した児童の割合は、5年生84.4%、4年生94.2%であった。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童の割合は、5年生62.5%、4年生76.4%であった。	話し合い活動で自分と他者の意見を比較し、思考したことをメモや思考ツールを用いて整理し、組み立てる。事実と自分の考えを区別して書く活動の充実を図る。	各教科において、文章や資料、図表などから分かることを考えて話し合ったり、書いたりする活動を積極的に取り入れる。書く活動では、書き出しや段落を指定したり、穴埋め形式にしたりなどすることで、書くことへの抵抗感を減らしていく。話す活動では、児童の実態に応じて語型を示したり、手本となる動画を視聴したりするなどして、児童が抵抗感なく話すことができるようにしていく。